

ディプロマ・ポリシー

			1年		2年	
			前期	後期	前期	後期
1. 知識・理解	1-1	複合領域としての臨床教育学を構成する、教育学・福祉学・心理学諸領域の専門的知識を修得している。	臨床教育学総論 教育社会学特論 教育病理学特論 発達臨床心理学特論	障害児・者の教育と心理 教育心理学特論 教育福祉特論	臨床福祉学特論Ⅱ 特別支援教育特論 児童臨床医学演習 臨床教育学演習 教育社会学演習 教育病理学演習 発達臨床心理学演習 人間・社会福祉学演習 子ども・家庭福祉学演習	
	1-2	修得された知識を、実社会や臨床現場との関係から理解し、活用することができる。	児童・青年臨床心理学特論 子ども・家庭福祉学特論 臨床福祉学特論Ⅰ	道徳教育学特論(1-2のみ) 人権教育学特論(1-2のみ)		
2. 技能・表現	2-1	知識に基づき、客観的根拠を持って分析する力を備えている。	心理アセスメントの理論と実際	調査研究計画 社会福祉調査法特論	教育調査・統計法	
	2-2	様々な職場、様々な立場の人々と協働する技能と方法を備えている。	人間・社会福祉学特論			
	2-3	考えを的確にまとめ、職場や社会のニーズに合う形で適切に伝えることができる。		臨床教育学総合演習 コミュニケーション特論	課題研究Ⅱ	
3. 思考・判断	3-1	社会における諸課題を、臨床教育学の知識と技能を活用して分析し、適切な問題解決に至ることができる。	生徒指導特論	課題研究Ⅰ	心理教育アセスメント特論	
	3-2	諸課題を多面的にとらえ、適切な方法を判断・選択することができる。	現代教師特論 学校臨床学特論		生徒指導演習 学校臨床学演習	
4. 態度・志向性	4-1	社会の諸事象に対して、柔軟な考え方ができる。		実地研究 現代子ども理解特論	学校と子どもの心理	
	4-2	人権に配慮し、対人援助への強い意欲を持って行動できる。	臨床教育学特論			

修士論文

